

西松建設まちづくり基金・まちづくり助成 第3期
「助成申請書の上手な書き方」

2016. 07.30

一般社団法人 みやぎ連携復興センター

紅邑晶子

西松建設まちづくり基金 まちづくり助成の趣旨

この事業を通して、

- 市民の皆さん自らが考える「地域の暮らしと生活環境をよりよくする取組み」に資金助成をする
- 皆さんの活動や多様なアクター同士の連携を後押しする

目的と成果を分かりやすく伝える

- なぜ、
あなたの団体はこの助成金が必要か？
- この助成金を活用したことで、
団体や地域にどのような効果（変化）があるのか？

活動内容を具体的に書く

- 助成金を使って取組む活動の5W1Hを書く
 - いつ(when)
 - どこで(where)
 - だれが(who)
 - なにを(what)
 - なぜ(why)
 - どのように(How)

活動のスケジュールも、 できるだけ具体的に

- 2016年9月16日－2017年2月28日の間で
目的を実現できる無理のないスケジュールを
計画する
- 実施する場所は確保できるか？
- 実施する時期の地域のほかのイベントは？
- 実施する時期の気候は？
- 実施当日の実施体制は？

この事業の実施体制は？

- 誰がこの事業の責任者で、関わるメンバーはだれか？
- この事業とほかの事業の関連性について組織内で了解をえているか？
- この申請書を提出する際に、組織内で申請内容を共有しているか？

積算根拠が明らかであること

- 予算案は、できるだけ積算根拠がわかるように書いてある方が、より印象が良い

たとえば

郵送費 20000円 よりも

郵送費 $80円 \times 2000通 = 16000円$

事業のストーリー性

- 申請内容が似ている場合、何を根拠に採択するか？
 - 1、事業を実施することで、地域にどんな影響があり、どのように地域に変化が起きるかが、わかりやすく伝えられている
 - 2、事業の必然性が伝えられている
 - 3、上記のことがストーリーのある事業として伝えられている

第2次審査・2分間のプレゼン

- 自己紹介・団体紹介はなし
- できるだけスッキリ・カンタンに落ち着いて話す
- 審査員に届くメッセージを伝える
～だから、～である。なぜならば……だ！
故に いくらのお助成金が必要。
- 何度もリハーサルをして、プレゼンに臨む
- 想定問答を考えておく。
応える際もスッキリ・カンタンに！

申請書は事業の羅針盤

- 申請書を書くということは、この事業を何のために行い、どのように取り組み、どのようにゴールさせるかを書き記すこと。
- これは、航海における羅針盤の役割りに似ている
- 事業の途中で申請書を見て、いまの事業の状況を確認して、羅針盤どおりに進んでいるか、航路をはずれていないかなど確認して、修正する

申請書は誰のためのものか

- 申請書は、助成金を得るためのものである
- けれど、自分たちの活動に必要な資金を調達して、より良い活動をどのように展開するかを考える機会でもある
- だから、申請書を書くことは、自分たちのこれからを考えるうえで意味のある時間である